

1月の行事

1日 元旦のミサ
14日 青年会 ミサ後
21日 婦人会 ミサ後
壮年会 "
28日 信徒総会 "
レジオ 12、19、26、



第144回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年1月7日

失われた聖画

清水 聖

キリスト誕生に『なかわだ』寄稿の順番にあたり神様の配慮でしょうか、幸せに思います。

1948年クリスマスに保土ヶ谷教会にて、マルセル・ウタン神父様より受洗。速いもので40有余年になります。洗礼式を終え、まだ緊張の溶けぬ小生に目のクリッとした大柄な若い女性が『洗礼お目でどうぞございます』と心持ち上気した顔に笑みを浮かべ聖画を手渡してくれました。確か裏面に『祝受洗、エリザベツ1948年12月25日』と書いてあったと思います。年をとったせいか当時のことを余り覚えていませんが彼女の面影は焼きついていました。戴いた聖画を聖歌集の間にはさみ枝折として大切にしていました。後年新しい聖歌集に替り聖画は別の場所にしまい、いつしか、彼女のことも聖画と、ともに記憶から遠ざかっていきました。1980年、40年ぶりに小学校時代の同窓会が関内の相生で開かれ、聖画の彼女に再会したのです。男子1組、2組、女子3組、4組、約200名の同期の中、彼女を知りませんでした。近年と違い男女の別も厳しく女の子には縁もありませんでした。再会を喜び悪童共との語らいもそこに彼女と当時の信者の方々の噂話をしましたが、昔貰った聖画のことはいいそびれてしまいました。1988年同窓会の通知を貰い、狭い家の中を心当りの場所わずかばかりの蔵書の間を探しましたがついに発見出来ませんでした。聖画の彼女にまた逢うのに、何か小生の信仰生活の証をと思いましたが、又々戴いた聖画の話をする事が出来ませんでした。

中和田教会の活動を尋ねられ、近々教会史が発行され小生の散文がのることを語りました。

『保土ヶ谷教会50周年記念を迎え教会史が発行され貴方の写真がのっているのを求めなさい。』と進められました。

この秋道南を旅し、函館トラピスチヌ修道院の司祭館際で偶然聖画の彼女に逢い何と彼女と縁があるものだなと思いました。おそらく彼女は小生に聖画をプレゼントしたことを憶えていないだろう、小生にとっては聞くに聞けず秘めた心のうちであります。いつか聖画を探しだすことが、洗礼式の感激、ひたむきな求道時の自分自身をもう一度鮮明に思い興し貧欲であった青年時代に戻り信仰生活の道をしっかりと歩みたいものと思います。

狂気—陶酔—正気

暗い話題で恐縮ですが、最近恐ろしい事件が頻繁に報道され、この様な世相に対して評論家諸氏がいろいろ論じておられます。

残虐極まりないこれら一連の事件を引き起こした犯人達が、仮に精神異常者でないとしたら、彼等の善悪の基準は一体どうなっているのかは誰もが疑問に思うことですが、ここで申し上げたいことは個々の犯人達のことではなくて、社会全体のことなのです。

即ち、残念ながら社会全体がまるごと狂気の世界に踏み込むことすら多々あったことは歴史の示すところであり、この意味で人間社会全体の道徳的規範は極めて不安定なものであると思います。

思いつくままに相互の脈絡なしで例を羅列すると、魔女裁判、ナチのユダヤ人虐殺、(「悪魔の飽食」で広く知られることとなった)旧帝国陸軍の人体実験、共産国家によく見られる大量粛清/処刑、浅間山荘事件を頂点とする学生運動/内ゲバ、……等々切りが無く、キリスト教社会、非キリスト教社会を問わず起っています。これらは現代社会に生きる我々からみると狂気としか映りませんが、恐ろしいことは当事者は必ずしも狂気の沙汰と思っていなかったことであり、個人個人が異常と感ぜない位社会全体が異常な狂気または陶酔感に支配されていたことです。

話は飛びますが、筆者は平凡なサラリーマンですが、頭が多少普段と異なる状況を経験するのは、御多分にもれず酒を飲んだ場合です。幸いにも(?)アルコールを味わう多くの機会に恵まれており、ときには仲間うちで氣勢をあげることもありますが、あの様な陶酔感が強力な魔力によって社会全体に作用することを想像すると、空恐ろしくなります。

不適切な例かも知れませんが、数年前ある新興宗教の教祖が亡くなり、信者の御婦人数名が集団焼身自殺をした痛ましい事件がありました。当事者でもない人間が勝手に想像して申し訳ありませんが、これも一種の陶酔感がその小さな社会にあったと思います。

とりとめのない暗い話をしてしまいましたが、善悪の基準は、もとより数学的に定めることの出来ないものであり、普遍的な拠所に欠けたまま多くの誤ちを重ねてきたのが人類だと思っています。

所謂道徳と信仰のかかわり合いについては複雑な要素が内在されており、筆者も明快に理解しているわけではありません。

しかし、少なくとも信仰の裏打ちの無い道徳観念は脆いものと考えられますが、しからば信仰の裏打ちがあれば大丈夫かという疑問が残るのが歴史の教えるところだと思います。

この意味で、多様化した現代社会に於ける信仰の在り方は増々重要な課題となりつつあり、我々も改めて信者の使命にまで遡って絶えず考え続けていく必要があると思います。

M・O

教会間交流の話

去る12月9日・10日、YYC(横浜教区青年協議会)の主催で1、区内の青年会の代表による交流並びに協議会が開かれました。神奈川・静岡・長野・山梨の各県から、およそ25名が集まって、青年の交流の活性化をテーマに真剣な話し合いが行なわれました。

ところで皆さんは、教区内全般の青年会活動がいまどんな状態か御存知でしょうか。自分の教会に関する活動は、それなりにしているところはあるのですが、交流となると、不活発どころか皆無というところが多い。教区内で最も交流の不活発な地域は、実は神奈川県なのです。

交流が不活発なのはなぜか、また交流にどんな意味があるのかという話はひとまずおくとして、今回なされた提案を紹介しましょう。それは「青年会活動を活性化する目的で、教区全体で参加できるイベントを青年の手で実行する」というものです。具体的に実行に移るかどうかは、3月にもう一度集まって決定するのですが、それまでに、中和田教会の青年会で意見を交換しなくてははいけません。詳しくはその時に話すとして、とりあえず隣の教会の青年会は一体何をしているのか、少し興味をもつのもいいと思います。

まあ、最近低迷している(あるいは皆で低迷させている)青年会の話の種になればいいなあと、次の例会に少し期待しています。

青年会 Y. 小山

委員会だより

11月3日(日)集会室に於いて壮年会1名、婦人会2名出席のもと開催。

- 1、クリスマスの件 前月検討の通り。
- 2、信徒総会の件 1990(平成2年)1/28(日)9:00のミサ後集会室に於いて開催する。

議題は、会計決算、新年度予算、役員改選等本件は別途掲示し、信者各位に周知させる。

- 3、年末清掃の件
- 4、教会史の件山崎神父様、小谷さんを中心とする編集委員会メンバーのご協力により完成をみるに至り、12/24(日)配本出来ることになった。印刷部数、配本価格等は以下の通り。

印刷部数 400部(含む贈呈用)
販売価格 2000円
頁数等 125頁内34頁(当初96頁写真36頁)

- 5、会計報告(11月次)

詳細は会計又は広報委員の所にあります。

+ 来たる平成2年3月25日、当教会堅信式が予定される旨、山崎神父様より、ご報告がありました。

壮年会だより
(12月17日のミサ後開催、出席者18名)

- 1、大そうじ
くもの巣とほこりにまみれた物置の整理整頓、さびがあちこちに吹き出した新集会室の鉄柱のペンキぬり、窓拭きや庭の手入れなど、18名の壮年会のメンバーが集まり、大車輪で大そうじをしました。

前日の婦人会の室内の大そうじと青年会の工夫ある飾り付けと相まって、クリスマスを迎えるにふさわしい清らかな教会になりました。

ありがとうございました。

- 2、会議
労働のあとの茶菓を口にしながら、次のようなことを手短かに話し合いました。

- ①委員会の報告
- ②クリスマス用のショートケーキ50個とオードブルを壮年会で用意する。

- ③新年会を1月17日のミサ後に行う。
会費一人2000円

婦人会だより

12月17日、平成元年最後の例会開催、婦人会より年末恒例の寄附を致しました。

カリタスジャパン 2万円
いのちのデンワ 1万円
フマニタス 1万円
かにた村 1万円

バザーの古着の残品を、旅路の里、シャローム、かにた村へ、又おむつ2箱をあまみの園へ送りました。

・平成2年度の新役員の方が決まりました。

会長 マリア アグネス 齊脇 久子
副会長 エリザベト 位田 裕子
書記 マリア ミカエル 望月 ふみ代
会計 クリスチナ 栗田 初恵
典礼 エリアナ 町田 保子
ベルナデッタ 山下 よし子

地区委員

踊場地区 テレジア 太田 清子
岡津、白百合地区 アンナテレジア 丸田 綾子
中田地区 マリアベルナデッタヨハンナ花坂昌子
下和泉 下飯田地区 アンナ 滝川 美代子
いちよう 上飯田 瀬谷地区 テレジア 大原幸恵
ドリーム 汲沢 深谷 和泉地区

セシリア 鈴木 矩子
1月21日平成2年度の総会と新年会を行います
多勢の方のご出席をお待ちしています。
当番は、いちよう、上飯田地区です。

お知らせ

洗礼 (12/24)

ユリアナ 岩淵 武子
マリア アナスタシア 山崎 久美
転入

小森 カセ
マリア 小森 小夜子
泉区和泉町4377-4
電話 802-8202

『中和田教会のあゆみ』が出来上がりました。只今、配本中です。お知合いの方々にも是非ご連絡いただき、お求め下さい。

2月の行事

4日 委員会 ミサ後
18日 壮年会 "



第 145 回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990 年 2 月 4 日

こだわり

①

山崎正俊

◎ 朝のすがすがしさのなかで、前日の日記を書くのが、私の永年の習慣である。

◎ 涙と共に種まく者は、喜びと共に刈取る。これまでの私は、この言葉を座右に置いてすごして来た。高校に入った頃に、十戒という映画を見て、強く胸打たれるものがあった。その物語りが記されていると聞いて、聖書を買った。それは新約聖書だったから、そこには見付けられなかった。その数か月あとに、旧約聖書を教えられ、キリスト教の聖書を両方とも読みすすめることになったのが、この宗教とかかわることの始めである。あとで上京して、お寺を下宿として世話された。そして、その哲学的な意味を持つ庭を眺めながら、キリストの祈りにひたりつづけた。そのうちに、はじめての女性に出会って、その母娘が無教会主義の集いに毎週のように参加していた御縁から、それに同行しているうちに、塚本先生のその研究会の熱烈な常連となり、受洗し、いまに続いているのである。

その女性と生涯を共にするのだが、数年前に先き立たれてしまった。その晩年は、ひどい神経痛に悩まされていたので、この気のいい妻が何をしたら、これほどの重い苦しみに耐えねばならぬような老後を迎えさせられたのかと、神を呪わしく思うようにもなった。ヨブ記を読みかえしてみても、よい答えは与えられないままだ。これも神様の御意志なのだろう、受け入れるよりほかはないなどと、自分をなっとくさせてみた。

◎ 3才のときに父を失っているのに、殆んどそのことは憶えていないが、母や姉が苦労していることは、それなりにわかっていた。それでも、大学を卒えるまで奨学金を受けることができたということがあって、まわりの人たちの意見も参考に、法科にすすんで、弁護士として世に立つことを考えた。職業上の必要からでもあるが、そのために、すべての点において、常識人であることにつとめ、気楽に誰とでも話し合える者でもありたいと心掛けた。裁判官というものは、だまって聞いていて、聞き終ったところで、ピシャリと判決を出せばよいので、むつかしい顔をして坐っているだけで、話し下手でもかまわないとおもうのだが、弁護士は、それだけでは足りない。



ゴールドラッシュと教会

鈴木 富雄

昨年6月、カナダ北部の町ドーソンと言う所に、仕事で行ってきました。ドーソンと言っても、どこにあるかは、ほとんどの人が、知らないと思います。

正式には、北緯64度10分、西経139度30分、北極圏までわずか400キロのところに、山合いのそれはそれは、小さな町でした。人口わずか500人、主な産業は、金山とわずかばかりの林業です。その金に引かれて「？」さい果ての町まで、2泊3日の旅をして来ました。

この町が、世界的に有名になった時期があります。1896年8月17日、このドーソンの町の近くで、金が発見されたのです。

このニュースは、瞬時に世界を駆け巡り、これが世に言う「クロンダイクのゴールドラッシュ」の始まりです。

それから2年間、一攫千金を夢みて、北米大陸を始め、ヨーロッパやアジアから、さまざまな人が、集まって来ました。

山師、飲屋のおやじ、雑貨屋さん、売春婦などが、一夜にしてテント村を築き、後に多少なりとも強い木造家屋を建てました。

90年経った今でも、その多くの建てものは、傾きながらも建っていました。

中には、支え棒なしでは建っていられない程朽ち果てているかと思うと、改修されて、今でも使われている劇場や郵便局がありました。

荒れくれ男の山師や売春婦だけでなく、当時としては、ちょっと名の知られた俳優やエンターナーなどが集り、ニューヨークのファッションからバリの高級ワインまでがあったそうです。

金と言う魅力に引かれた人々の作り出した、様々な社会的現象を、かい間見る事が出来ます。

保存されていた建物の中に、二つの教会がありました。聖公会とカトリックの教会です。

大自然の中、想像を絶する寒さと、金だけを求める荒々しい町の中で、当時の牧師や神父は何を説教したのだろうか。

非常に興味あるところであるが、残念ながら説教の内容までは、残っていませんでした。

人の集まる所、必ずと言っていい程、宗派は別にしても教会の姿を見る事は、私の様な旅人にとって心休まる事です。

山師の様に一攫千金を夢見て、はるばるドーソンまでやって来たにもかかわらず、はかなくも夢破れて、吹けば飛ぶような僅かな砂金をおみやげに、すごすごと帰って来た次第です。

壮年会だより

(1月21日開催 出席者21名)

1. 清水会長の年頭の挨拶
2. 新しい名簿と連絡網の確認
3. 1990年度年間行事予定の検討
4. 「中和田教会15年史」の編集の経緯報告
編集長の小谷氏さんから、五十嵐さんが提案してから完成に至るまでに、多くの御苦勞や工夫があったことが話される。
5. 新規購入本の紹介
副会長の小野寺さんより、平成元年度の教会予算2万円で買った本の紹介がありました。
6. 新しい会員の自己紹介
石崎さん、藤田さん
7. 新年会
いつもより多い21名の会員が集まり、今回も小谷さんの特別な御計らいによるお料理と飲み物を囲みながら、楽しい一時の語らいができました。
今回は全員が自己紹介をし、自分の思っていることや悩みや抱負を紹介し合うことができ、より親交が深められたように思います。
さらに、新しい会員として、まだ若く社会の第一線で活躍されている藤田さんと石崎さんも参加され、会が一層盛り上がりしました。
会費2000円。美味な御馳走十二分に、なお予算がだいぶ余りました。

婦人会だより

1月21日、総会と新年会を出席者52名で甲斐会長のお祈りで始まりました。各役員さんより年間報告がありました。又、小谷さんより15年史の出来上がるまでの説明がありました。大変ご苦勞があったようです。ありがとうございました。
その後新会長のご挨拶があり役員紹介があり一言ずつの挨拶をしました。その後食事をしながら終始なごやかに会が進み最後に皆さんで歌を唄って12時30分頃解散になりました。

新入会員のご紹介

福山 ふみ子さん 中町さんのお母様です。
橋本 宏美さん いちよう団地です。
小森 小夜子さん 和泉町の方です。

今年1年神様のご加護が皆様の上にありますように。
次回お茶当番は和泉、深谷、ドリーム、汲沢地区です。

お知らせ

- ・司祭叙階式
2/12(月)代休日 11時 秦野教会に於いて
トマス アクリナス 高橋 慎一郎師
- ・2/4(日)より毎日曜日、午前8時15分から堅信の勉強を始めます。対象者は必ず参加して下さい。
- ・3/25(日) 堅信式(詳細は次号に於いて)
- ・信徒総会
1/28(日)新集会室に於いて開催された。

・お悔み
ヨハネ 原 俊神父 (末吉町教会主任司祭)
1月31日 帰天

委員会だより

1. 教会史頒布状況の件
小谷委員より次の様な説明が行われた。
・製作部数 400部(別に神父様ご自身として200部)
・費用824000円(400部分 税込み)
・全頒布見込数については1/14(日)編集委員会に於いて締めを行い報告する。
以上につき質疑が行われ実頒布数については1/14日の結果をまつこととし、頒布残の金額については、90年度教会会計より支出することで了承を得た。
2. 90年度教会予算の件
予算の中で特に以下の3点について検討が行われた。
・教会史頒布残金の措置。
・堅信式経費。
・神父様の収入(謝礼等)の教会経費への計上
以上の他 修繕費として従来程度を計上する。
3. 90年間主要行事予定の件(別表参照)
(親睦バザー、親睦パーティー等については、壮年会、婦人会、別途検討の上決定する。)
4. その他。

1990年々間行事予定表

月	主な行事(祭項)予定	備考
1	・(新年会、壮年会、婦人会) ・信徒総会(1/28日)	・児童福祉献金(1/2)
2	・灰の水曜日(2/26日)四旬節	
3	・堅信式(3/25日)	・(親睦バザー)
4	・復活の日(4/8日) ・春の告別式(4/15日) ・聖週間の行事(4/15-19日)	・聖週間の行事(4/15-19日)
5	・母の昇天(5/27日)	・宣教の日献金(5/2)
6	・聖霊降臨の主日(6/3日) ・三役一休の主日(6/10日)	・聖霊降臨の主日(6/3日) ・山崎神社様神楽祭(6/10)
7	・夏祭り(7/29日)	
8	・聖母被昇天(8/15日)	・平和週間(8/1-7日)
9	・敬光のお祝(9/15日) ・聖母被昇天(9/15日)	・移住の日献金(9/1)
10	・ロザリオの祈り(10月全月) ・(親睦バザー 10月15日又は16日)	・宣教の日献金(10/1)
11	・死者の日(11/2日) ・ミカドのお祝(11/20日)	・死者の日
12	・共同告別	・宣教の日献金(12/1)
その他	・本年の主日の周期はA年。 ・山崎神社様神楽祭の際は留守番等と分担する。 ・印は予定又は検討事項。	

3月の行事

4日 委員会 ミサ後
18日 壮年会 "
婦人会 "
25日 堅信式

レジオ 9 16 23



なかわだ
会報

第146回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年3月4日

「和」

束原秀夫

この度、神父様はじめ編集委員の方々の御尽力により「中和田教会のあゆみ」が完成いたしました。頁を繰りながら過去15年の折々の事々が昨日の出来事のように思い出されてまいりました。献堂以来今日までこの小さな中和田教会にも様々紆余曲折があり、そしてそれなりに終熄して過ぎてまいりましたが、そんな中で私が教えられたものは「愛」と「信」と「和」であったと思います。感情の行き違い、情熱の故にあるいは遠慮などから生ずる誤解、己れの弱さを承知しつつも日常の余りに人間的な葛藤の中で何か心に蟠りを持ちながらの生活に答えてくれるものは愛であり信でありそして和であったと思います。愛と信は申すまでもありませんが和と一口に言っても仲なかに難しいものです。以前、和についてお話したことがあります。和には3つの型があるといわれます。その1はお互いが唯寄り掛け合い、あなたまかせお互いに責任も感じない「もたれ合い無責任の和」。第2は何事にも無条件に妥協し追従に徹して保たれている和「自己抹殺の和」。そして第3は各自が意見を開陳し相互理解と協調による和「理解と協調による和」です。教会に於いて特に和は大切なことですがその和は第3の和でなくてはならないと思います。然し中和田教会が唯、和だけの教会であっては弱いものになってまいりましょう。和から発する活力が必要になります。乃ち信者一人一人が「神の教会の働き手」として教会活動に参加し協力し合って行動することが和を強くすることになるものと思うのです。神と自分の係わりを大切にしなければならないことは当然なことですが、私達信徒には「神の教会の働き手」としての義務がある筈です。相互に啓蒙し合い協力し合って行動する中から明るく逞しい中和田教会が育まれてゆくものと思います。

(私事で甚だ僭越ではありますが、この度委員を辞任させて頂きました。信仰心も薄く非力を顧みず責任あるお役目を何とか維持させて頂きましたのは神父様方の御理解と先輩各位をはじめ委員の方々そして信者の皆様方の御鞭達と御協力以外の何ものでもなく唯々衷心より感謝致しております。御期待に添うこともなく顧みて慙愧に絶えず併せて深くお詫びを申し上げます。何卒今後も御鞭達、御交宜を賜りますようお願い申し上げます。紙面をお借りし御挨拶申し上げる次第です。)

(終り)

委員長就任に際して

1990 2 16

束原委員長のバトンを引き継ぎます。思いまするに、創生期、開花期、果実期があるとすれば、元年、信徒総会で、教会財政面は信者各位の協力で約10年、ようやく安定状況に至ったが、山崎神父様の絶大な金銭的ご援助が支えとなっている。今後の教会運営からも、財政面に関心を寄せ協力を願うと申されています。中和田教会の創生期はやがて15年、開花期に入ります。

ルカ福音書第21章、2レフタを自分にあてはめて考え、来る教会開花期、これは全てのことを意味します。この奉仕と使命に徹しながら、教会の古き伝統を守り、新しき時代への対応に処するべく、形を整えます。具体的に申しますと、教会訪問者への、即対応出来る場所づくり、教会事務室の移動整備等、これらを「逐一委員会テーブルに提案し」暖房器具のように勿体ないより危険防止、耐用年数をすぎた器具は取替有効率を計りたく考えてます。どうぞ、皆様のご協力をお願い致します。

小谷 徳彌

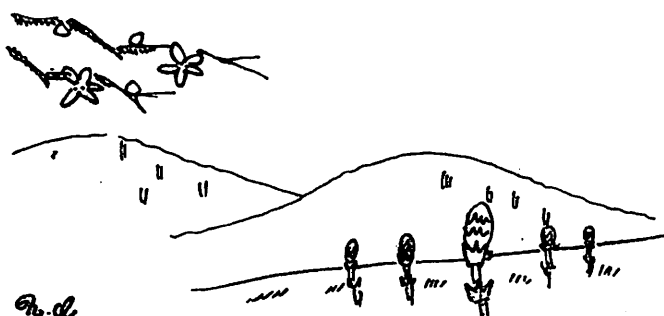
御挨拶

斉脇 久子

この一年間、婦人会々長をつとめさせて頂くことになりました。副会長以下五人の役員の方々のお力添えを得ながら、責任を果すよう力を尽くす所存でございます。

今年度、私共役員一同は、当教会婦人会のこれまでの誇りある歴史と伝統を尊重して、神父様の霊的御指導に基いて活動し、更に聖霊の助けによってこの会が神様の御旨にかなう方向へ発展するよう祈りつつ、働いていくつもりでございます。

これまでの、和やかで活力ある婦人会が新しい会員の方々もお迎えして、更に明るく、フレッシュな会として発展するよう、願っております。皆様の御協力を心からお願い申し上げます。



横浜教区宣教司牧評議会報告

日時、2月4日(日)時間14:00、場所大船カトリック教会 テーマ開かれた教会 参加第5地区メンバー、司祭三浦功神父様の司会で、中村神父様、カーテン神父様、大船、戸塚、鍛ヶ谷、片瀬、中和田、藤沢(欠席)の各教会とその地区のシスターの方々と、1、評議員の改選、2、教区から与えられたテーマ、3、東南アジアの人のため何をしているか。特にこの3は現在大船教会で福祉部が、サロモッポ会(里親制)まともは、高輪教会で、バザーの収益の一部とか、バザーでフィリピンコーナーとかで資金を作って協力するとか、(かつて日本はフィリピンで悪いことをしたその償の意味でも、各教会で取上げてほしい。)

新評議員

司祭、	ガラハ神父様(藤沢)
シスター	白木様(戸塚)
男子	山内様(片瀬)
女子	守山様(鍛ヶ谷)

記小谷(丸田)

委員会だより

新役員の7名と婦人会より同じく新会長、副会長の出席のもと集会室に於いて開催。

- 選出された役員は以下の通り(略 敬称)
委員長 小谷
副委員長 花坂(兼 行事、営繕)
典礼委員 萩原
要理" 井上(兼 渉外)
財務" 橋
"補佐 七浦(兼 書記)
広報" 石井

新任の小谷委員長より今期の方針が以下の通り表明された。

- ・中和田教会運営基準の遵守。
 - ・広報誌活動のホロー。
 - ・委員会及び主要行事等の委員出席励行。
- 灰の水曜日について
・御ミサ 2月28日(水) 19:00
・十字架の道行 3月2日(金)より毎金曜日 16:00
 - 前期委員会送付事項についての確認
・前束原委員長よりの送付記録
・帰天者の取扱いの第3項、葬儀の式次第を揭示使用可能のように整備の用あり。(この原案を作成準備、担当 小谷委員長)
 - 会計報告(1月次決算)
詳細は会計又は広報委員の所に有ります。
 - 一粒会委員交代の件
七浦委員退任、新委員として富田さんが選出された。
 - その他

壮年会だより

(2月18日開催 出席者15名)

- 会長挨拶
- 委員会報告
小谷委員長の代理で七浦さんより
- 新委員の方々の抱負
萩原さん(典礼)からは、ミサの司会者をもう一人増やしたいこと、井上さん(子ども会、渉外)からは、今年も夏休みの合宿をしたいこと、バザーで近隣住民と交流したいこと、七浦さん(書記、財務補佐)からは、新しい委員会での「今期の方針」を頭に置いて努力したいこと等の抱負が話されました。
小谷委員長、花坂副委員長、石井広報担当さん、橋財務担当さんは、所用のため不在でした。
- 壮年会員の名札の作り替え
近日中に全員のものを揃え、名札を付けることを励行するようにする。
- 御逝去された花坂権四郎さんの壮年会費は、3月分から御返しする。
- 3月例会日(3/18)に、庭の草取りを行い、飲み物を囲みながら話し合いをする。

婦人会だより

2月18日 出席者35名で行いました。

- 遠足に行く事に決まりましたが、場所は未定です。希望の所があれば3月の例会で提案して下さい。
- 教会より自宅までの略図作成の件
緊急時に使用出来るように会員各自に道順、乗物などを記入してもらい、教会、各委員に配布する。
- 1月23日、阿部映子さんのお義母様帰天なさいました。お通夜、告別式に会員の方々が伺いました。
- 堅信を受ける方
アナスタジア 下村 昭子さん
マリア アスンタ 仲村 フクさん
マリア アスンタ 松田 ノリコさん
アナスタジア 松尾 秀子さん
ユリアナ 岩淵 武子さん
次回のお当番は踊場地区です。

お知らせ

- ・お悔み
ベトロ 花坂 権四郎さん
2月13日 帰天
- ・3/11(日)四旬節の黙想とゆるしの秘跡
指導 ウルフ神父様
- ・司祭叙階式 ミカエル 林 健久師
3/21(水)春分の日
二俣川教会 10:30

4月の行事

1日 委員会 ミサ后
6日 初金 ミサ 10:00
13日 聖金曜日 大斎 小斎
22日 壮年会例会 ミサ后
婦人会例会 ミサ后



第147回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1997年4月1日

余話

若者の間で人気のあるハンバーガーの由来についてご存知ですか？ハンバーガーの大元になるハンバーグが、実はソビエト生れだったとは、ハンバーグの名が、エルベ川にのぞむドイツの一都市「ハンブルグ（HAMBURG）」から来ていることは知られていますが、そのハンバーグの原籍を遡ると今は別の料理としてメニューに乗る「タルタルステーキ」にたどりつきます。中世の頃、中央アジアのタルタル地方（現在のソ連邦トルクメニスタン、キルギス、タジクなどの自治共和国にあたる一帯）の大草原で暮らしていた騎馬遊牧民族タタール人（TATAR=タタール人）は、食糧として「生肉を細かく刻み、草原に生息していた玉ネギやチャビル、タラゴンなどの香草を混ぜ込んだ塊り」を馬の背とクラの間に挟み移動していました。草原を走っているうちに、馬の体温とクラの圧力で、その肉はほどよくこなれ、うまい「タルタルステーキ」になっていたといわれます。これが当時のロシアのバルト海岸諸国に伝わり、18世紀に入ると、そこからドイツ人の船乗りによって、ドイツの港町ハンブルグに持込まれました。ハンブルグではこれを「もっとうまくするために」と熱を加えカリッと焼きあげる工夫をし、爆発的な人気を呼び「ハンバーグステーキ」へと変身しました。

一説には『タルタルステーキを少し焼いて食べることを始めたのはイギリス人』とも言われますが、ヨーロッパに広がったこのステーキは19世紀後半、ドイツからの大量移民とともにアメリカに渡り、アメリカ国籍を得てしまいます。ただし、ニューヨークで最も古いとされる1838年創業のレストラン「デルモニコ」のメニューには、「ハンバーグステーキ」の名が書かれていたといわれます。ハンバーガーステーキから「ハンバーガー」の誕生には伝説的な諸説がありますが、いまでは1904年アメリカ・セントルイスで開催された世界博覧会での誕生が定説とされています。博覧会に集まった大勢の人々のために、見物しながら食べられる「中食」として、食べやすいように焼いたハンバーグをパンに挟みこむことを、コックが思いついたといわれます。ソーセージを細長いパンに挟む「ホットドック」も同じ発想です。博覧会参加者にウケたハンバーガーはアメリカ全土に広まり、いまやアメリカ人の標準的昼食の一つとなっただけでなく世界中に進出することになり、日本でも大変な人気を得るようになりました。

M・H



祈禱書の中の落書きから

“あとから来たものが先になる”と聖書の中にも書かれているが歳をとったからといって立派な信者になれるものではない。むしろ長くとほりや垢がついて余計に汚くなったりして、時々風呂に入るけど見るとところか手のとどくところしか洗わなかったりして、なかなかきれいになりきれない。

時たま、祈禱書などを手にして、しっかり祈りをしようと思っても、つい雑念が入ってしまい、小さい時からいたずら癖から鉛筆を手にしては祈禱書等にも、かまわず落書きをしてしまう始末。今では黒く汚れた、いたずら書きの祈禱書の中の余白が一杯に塞がってしまった。その中から好きな言葉を拾うと“神様どんな不幸を吸ってもし息は感謝でありますように、すべては恵みの呼吸ですから”又“苦労話はしないで下さい。あなたの愛の深さでわかるから”川村直子詩集より。この言葉のように、その人がいるだけで回りが温くなるような、そんな人達になれたらと思う。又次の言葉も“目で見える人を愛しきれなくても目に見えない神を愛することは出来ない”聖ヨハネパウロⅡ世。又“考えてみれば神様も私たちがムダにするのを承知でご自分を私達の自由にまかされました愛とはそんなものかもしれません”又“生きることは愛すること愛することは理解すること理解することは許すこと許すことは許されること許されることは救われること”この言葉も好きである。まだ色々な落書きがあるが祈りの中でこのような言葉集めばかりしているから立派な信者になれるのかもしれない。ある神父様のジョークに“口だけは天国に行って口の悪い顔とからだは地獄にいた”と言う話をしておられたがどうも私もその一員みたいである。でも祈りの中で一番好きな言葉は“たとえ全世界を得ようとも魂を失えば何の益するところあらん”である。

がんばらなくては。

(K・N)

委員会だより

- 3月4日(日)集会室に於いて開催。
- ・堅信式の件
日時 3月25日(日)9:00より浜尾司教様ミサ後 教会庭で焼肉パーティ開催、(雨天の場合 聖堂に於いて)
当日、教会の庭は駐車禁止となります。(横浜銀行、神奈中用地利用を検討中)
- ・高校生会の活動により、水俣甘夏みかんの斡旋販売を行う。
日時 3月18日(日) 教会内にて
- ・告別式葬儀ミサの式次第について
委員長より式次第について呈示があり、内容に関して萩原、石井両委員が見直しの検討を行う事となった。(5月完成を目的とする。)
- ・壮年会より庭掃除用具購入の要請の件
ノコギリ、ハサミ等の購入を了承
- ・「心のともしび」病人のためのテープ購入の件
ベトリ神父様作成のテープ、貸出しの形で活用していただく。
- ・2月度会計報告
詳細は会計又は広報委員の所に有ります。
- ・山崎神父様の部屋改良について委員長より提案された。

壮年会だより

(3月17日開催 出席者13名)

- (1)前庭の手入れ
「早めの除草で、より美しい庭にしよう！」「堅信式や御復活祭にも備えよう！」ということで、壮年会員13名が集まり、花壇の中や周りの草取りと溝のドロ上げに精をだしました。大車輪で働く壮年会員の雄々しい姿に、無農薬ミカンを販売する青年会の男女とマリア様が、やさしい応援のまなざしを送ってくれていました。
- (2)話し合い
おいしい飲み物をいただきながら、次のようなことが、手短かに話し合われました。
①委員会報告 小谷委員長より
②全員の名札がそろったので、付けることを励行しよう。
③教会費より5000円の農具(草刈りガマ、枝切りノコギリ)を購入した。
④初めて連絡網を使用した、ほほうまくいった。
⑤告別式の進行の仕方について
⑥耳の不自由な人のために、ミサの音量の調節をする。
⑦庭の手入れの責任の所在を明確にしたかどうか。「庭をきれいにする会」の再興を。
⑧3月24日(土)11時より、堅信式ミサ後のパーティー用のテント張りに協力を!

婦人会だより

- 3月18日、出席者30名で行いました。
- 1、3月25日の堅信式後の親睦祝賀パーティのために、おにぎりを約百個作るお手伝いをする事になりました。十数名、協力を申し出て下さいました。
 - 2、御復活祭の前日、4月14日朝9時30分より大掃除及び卵ゆでを致します。なるべく多勢の方の御協力をお願い致します。
 - 3、婦人会の遠足が決まりました。5月22日(火)バスによる市内観光です。詳細は追ってお知らせいたします。
 - 4、堅信をお受けになった方、おめでとうございます。
次回のお当番は岡津、白百合地区です。次回例会は4月22日です。

お知らせ

洗礼 3月18日 おめでとうございます。
ヨゼフ 成毛 亨
和泉町6223-11
TEL (803)3519

堅信

今回は18名の方が受けられました。

エウジェニオ	濱尾 拓哉	ヨゼフ	成毛 亨
マリア	橋 陽子	ユリアナ	岩淵 久美子
ヨハネ	山田 泰治	マリアアナスタジア	山崎 秀子
ヨゼフ	山下 誠	アナスタジア	松尾 昭子
ヨハネ	花坂 彰	アナスタジア	下村 昭子
マリア	森田 紀子	マリア・アスンタ	仲村 フク
マリア・テレジア	中野 かほり	マリア・アスンタ	松田 ノリ子
マリア・ローザ	小野 まり子	ガブリエラ	吉川 裕子
ヨハネ・ヴィアンネ	橋 直行	フランシスコ	ザベリオ 山田 作造

5月の行事

5日 委員会 ミサ後
20日 壮年会 "
婦人会 "

レジオ 11 25



第148回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年5月6日

中国ブロックへ行って

武田 光信

僕は今回第24回カトリック中国ブロック高校生山口大会（3月27日～3月30日）へ、同じ中和田教会の小野さんと逗子教会の渋谷君と山手教会の金さんと水沼君の高校生5人とつきそいでSIS（青少年青年情報センター）の青木さんで行ってきました。

前に記した計6人が中国ブロックへ横浜教区の代表として行ってきたわけで、この中国ブロックが終わった後でみんなに感想を聞いたところ「最初は本当にこんなところに来て大丈夫なのかなあと思ったけど、すぐになじめたので良かった。」と口ぐちに言っていました。この意見には僕も同感でした。

今回、僕が行って感じた（学んだ）ことはなんといっても司教様をはじめとした神父様やシスターがたの協力が絶大であったことでした。しかし神父様やシスターが協力するといっても、直接その人たちが高校生たちにあれこれいうのではなくとりあえずは高校生たちに一任して、自分たちは陰となって、高校生たちがつまずいたりするとそれを注意する程度なので高校生たちが自分たちだけでやっているといっても過言ではないと思います。そのような神父様やシスターがたの協力のしかたがあるからこそ高校生たちの自主性というのが育っていくのだなあと思いました。

中国ブロックで驚いたことは、ミサの内容でした。ミサは初日以外毎日あって、2日目のミサは司教様があげてくださり、3日目のミサは改心式（ゆるしの秘跡）があったりして、いろいろなミサを経験しました。その改心式のミサでは15、6人の神父様がいて、参加者（約220名）全員の改心を聞いて下さって、ひとりひとりにお話をしてくださってとても良いことだなあと思いました。まだ他にもいろいろとあるのですが今、記したものが僕が中国ブロックへ行って最も感じた点であり、全体を通じて思った（感じた）事はまた新しい経験をして良かったということでした。



壮年会だより

（4月8日開催 出席者11名）

- 御復活祭、教会内整備及び懸案事項 3件について話し合いをおこないました。
- ①厨房 湯沸し器老朽化について、危険であり予算措置もとってあるので前向きに具体化を進めてほしい。
- ②物置 掃除具入れ場に照明設備の設置検討
- ③先月の例会で「庭をきれいにする会」の再興について話がありましたが委員会として取上げてくれて5月の例会で議題にのせ造園計画を練る事になりました。席上、当教会のイメージアップを計る事が出来る、美しい庭に造りシンボリックな立木を植える等建設的なご意見が沢山出ておりました。短い時間でしたが楽しく終わりました。

委員会だより

4月1日（日）集會室に於いて開催

- 1、聖週間について
- 2、復活祭について
- 3、教会内整備について（小谷委員長提案事項）
 - ・厨房横の和室のタタミ取替え（表替え検討）
 - ・厨房の湯沸し器について（取替え時期に再検討する）
 - ・教会内ストーブの取替えについて（6台今年度内に取替える予定）
 - ・事務室の拡張計画について（委員長が検討案を準備する）
 - ・掃除道具入れ室の電灯設置
 - ・第2駐車場について（横浜銀行、サーティワン駐車場の借用の検討）及び車の登録制について検討してみる。
- 4、懸案事項について
 - ・告別式葬儀ミサの式次第については5月完成予定を6月迄延ばす。
 - ・“心のともしび”病人のためのテープ活用について会報掲載によりPRを行い活性化を計る。
 - ・山崎神父様の部屋改築の件は一時保留
- 5、侍者服用の整理収納タンス（ハンシーケース購入希望について要請があった。）
- 6、3月度会計報告
 - 詳細は会計又は広報委員の所にあります。

婦人会だより

- 4月22日出席者27名で例会が、開かれました。
- ・ご復活祭の卵ゆで、大掃除のお手伝いをありがとうございました。
 - ・会計が今年度より二本立になります。一般会計は会費、特別会計は奉仕活動による収入を充当します。
 - ・レジオ、マリエの神父様の講話抜粋集を岩崎様がお作り下さいました。売店の棚に置きますのでご自由にお持ち下さい。
 - ・遠足の参加申し込み用紙を用意いたします。多数ご参加をお待ちいたします。

次回の当番は中田地区です。（20日）

お知らせ

- ・転入 皆様どうぞよろしく。
- マルガリタ 小森 カセ
- マリア 小森 小夜子
- 住所 泉区和泉町4377-4 TEL 802-8202
- ・ご結婚 おめでとうございます。
- 5月3日（碑文谷教会）
- ヨゼフ 松下 春樹
- マリア・アナスタジア 山崎 久美
- 住所 泉区和泉町2891 TEL 804-4858

②

仕事を通して思うこと ③

上野 厚

前2回は、放火犯罪の動機に関して人間関係の不調和が基盤となっている動機を中心に述べましたが、今回は、発生件数と動機からみた放火犯罪の変容ということについて触れたいと思います。

従来、放火は農村型犯罪であると考えられてきました。その理由として、農村は固定的な共同体で、相互の結合の強い反面、軋轢も多くて些細なことを契機にして（近隣関係）が深刻な憎悪に発展することが多く、これが、マッチ1本あれば姿を見られずに、老若男女を問わず誰でもが犯行可能な放火という犯罪に結びつき易いためであると説明されてきました。

もっとも、都市で生まれ育った現代の10代、20代の若い人達には、太平洋戦争前後の農村における人間関係の結合の強弱や軋轢の多少と言ったところで容易に理解出来ないと思いますが、この頃は、現代では想像もつかないほど日本の社会全体が貧しく、良きにつけ悪きにつけ地域社会において隣人が互いに助け合わないと生活していけない時代であったのです。それだけに、とりわけ農村においては、隣人間の結び付きも強い反面ちょっとしたことが原因となってこれが崩壊して極端な場合には、放火行動に至るような憎しみに変わることも、極く稀にはあり得たと言えお分かりいただけるかと思ひます。

事実、太平洋戦争前後の約10年間の放火を対象とした研究データにおいても、人口比からみた発生件数は、農村部における方が都市部におけるよりも多く、また、動機では、（近隣関係）の人間関係の不調和を基盤としたものが一番多かったことが明らかにされています。

ところが、今回のお話の基礎となっている昭和50年前後の10年間の放火を対象としたデータによりますと、発生件数では、都市部における方が農村部におけるよりもはるかに多く、動機では前々回にも述べたように、職場での（雇用主、上司、同僚）との人間関係の不調和を基盤としたものが一番多く、（近隣関係）のそれを基盤としたものは僅かしかないと明らかです。

つまり、放火犯罪も他の犯罪と同様、発生件数動機ともに農村型犯罪から都市型犯罪に変わってきたと言えることができます。

そこで、次回は、都市型放火犯罪の特徴的な犯罪者象についてお話したいと思います。



愛する日本への贈物

フラドールから来たアンドレ・レノーレ神父は約十年間の労働で何をどのように見たか

山崎 正俊

◎ あのような小さなところで働いたおかげで、いろいろなことがわかるようになりました。労働界にある二重構造。下請労働者の労苦。悩みと諦め。「泣き寝入り」という言葉。その忍耐強さ。長い労働時間。組合作りでの困難とむつきしさ。そのようなことをよく見てきました。今の人手不足。そういう仕事はしながらの青年たちの気持ち。その代りに日本に働きに来る外国人労働者の問題点も、よく理解できるようになりました。肉体労働はつらい。労働時間はながい。労働条件は悪い。まるで、二十世紀の奴隷の典型です。

◎ そういう仕事のなかでの神父として、キリスト者として、私のなすべき「証」は、生産より人を大事にさせると同時に、残業を断りつづけるということでした。これは大変なことでした。仲間との口喧嘩の元は、たいてい、このことでした。「そのような考えでは困る。会社のことを心配したことがあるのか。それはヨーロッパ人の考えだろう。そんなことでは、日本人の仲間にはなれないよ。ここでは要らん。ヨーロッパに帰ったほうが身の為だ」などと、よくいわれたものです。

◎ 私の言い分は、だいたい次のように、まとめることができます。――私は、残業の全てを断ろうとしているではありません。例外としてなら受け入れます。しかし、残業が殆んど毎日のことになるなら、日曜日まで休めず出勤というのなら、どういう結果になるのでしょうか。

① 家庭のこと、子供の教育のことのすべてを、奥さんまかせにしなければならなくなる。というのは、お父さんの重要な役割の放棄ではありませんか。そのとき、男の子・十四五歳の息子にとつての成長に欠かすことのできない相談相手、親身な助言者がいないということになります。母親だけでは、あつかい切れなところがあるので。

② 残業をやればやるほど、当然のこと疲れがとれにくくなる。酒に憂さをはらす。家ではテレビを見ながらごろごろしている。読むのはスポーツ新聞ぐらい。これが文化の恩恵を受けた生活と云えますか。せつかく読み書きができるほどの教養を身に付けているとしても、今は手紙も書けない本も読めない。まったくの植物人間みたい。子供に見せる父親像が、これでよいのですか。

6月の行事

3日	委員会	ミサ後
24日	壮年会	"
24日	婦人会	"
8、15、22、29	レジオ	



第149回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年6月3日

日本人とカトリック

世界総人口の六分の一を占めるカトリック教徒も日本では全人口の〇、3%（35万人）と低い傾向にあると言う。

戦国時代イエズス会のフランシスコ・ザビエルがカトリック教を伝来して以来、諸国の大名が国力の増強策と相まって布教活動を活発化し最盛期には二〇〇余の教会と一五万人になったと言われている。

その後秀吉の時代ポルトガルの布教保護権によるイエズス会の独占が終了、フランシスコ会、アウグスチノ会などの宣教が始まるが徳川幕府の前に沈黙化する。

一八六五年三月「サンタマリアの御像はどこ」の長崎浦上のカクレキリシタンとフランス寺（浦上天主堂）の神父フィティジャンとの間にかわされた『サンタマリアの御像はどこ』の会話が日本カトリックの復活となる。その後浦上四番崩れ等の迫害もあったが明治六年西欧の圧力によりキリスタン禁令の撤廃、南北の二司教区（長崎・横浜に分れそれぞれ司教が着座しカトリックの布教が開始された。その後西欧諸国より数多くの宣教師が来日し布教に努めるが日本人特有の宗教感からか他の宗教に比しその発展は著しく低い。

日本は多神教の国民である。又善悪よりも環境への適合を重んじる、それは西欧の国民性とは違うものであろうと考える。農耕民族と遊牧民族、木材文明と石材文明にたとえられる通りである。生きている人間の繁栄、五穀豊穡、無病息災を求めて祈るのが日本人の神。他界した祖先の霊も現世にかえり現世の子孫の為に、の思想はカトリックの考え方とは相容れない物がある。カトリック教会も開かれた教会としての歩みを開始した。

神がみがたくさん居る日本の中で唯一の神を信じ、泥の中で泥を落とすのではなく、泥の中で泥と調和し泥そのものを浄化する寛容の気持で、現在の流動化する国際情勢を踏まえて考え、行動して行くべきだと考える。

記 y

委員会だより

5月6日ミサ後集會室に於いて壮年会1名婦人会2名出席のもと開催

- 1、財務関係
 - ・イースターパーティ収支報告
 - ・定期預金の銀行移管について
- 2、事務室改装の具体的実行について
 - ・改装費は別途寄附金にて行う
- 3、提案事項
 - ・ミサ奉仕者当番表設置について（運営管理上の問題があるため萩原典礼委員と相談の上具体化を進める。）
- 4、4月度会計報告
 - 詳細は会計又は広報委員の所にあります。
- 5、婦人会よりの報告事項
 - ・設備新、改設等については各分野の意見も十分に汲みいれて審議の上実施を希望。
 - ・催事のパーティ準備については婦人会との打合せを密にして戴けることを希望。（イースターパーティ反省、意見）

壮年会だより

（5月20日開催 出席者8名）

- 1、委員会報告 清水壮年会長より
- 2、造園計画について
 - ①「庭をきれいにする会」を再興する。
4月の委員会でも取り上げられたように、当教会のイメージアップをはかるために、シンボリックな立木を植えたり、花壇をより美しくして行くための会とする。
世話人-----五十嵐
メンバー-----大水、石崎、滝川、（徳山）
*ただし、信者全員が協力する。
 - ②門を入った所の左の花壇をカットする。
最近自家用車が門の近くにまで止められ、自転車やバイクや人の通行の妨げになっているので、通路を確保するために花壇の最小限度のカットをする。
「庭をきれいにする会」が中心になって近日中に実施する。
- 3、レクリエーションについて
壮年会の年間計画に盛り込まれている青年部などとのレクリエーションとして、ソフトボールをやってみたらどうか、以下の内容で6月3日の委員会に提案する。
・日時：8月26日（日）
・青年会、高校生会、婦人会に呼び掛ける。
・チームはミックス、3チームのリーグ戦
・終わってから懇親会
・責任者は壮年会の宮崎

婦人会だより

5月20日、33名の出席のもと例会を開催

- 1、バザーの件
6月10日ミサ後、役員、地区委員でバザー委員を結成し話合う。
- 2、6月1日（金）光藤さんの一周忌追悼ミサを10時より行う。
- 3、レジオ、マリエで山崎神父様の講話を岩崎さんが、小冊子にまとめてくださり、1回目は配布が終わりまりましたので、刷りあがり次第お知らせします。
- 4、6月17日花坂さんのお嬢さんの結婚式の為例会は第4日曜日（24日）です。

次回当番は、下飯田、下和泉地区です。

お知らせ

転入
セシリア 山口 理恵
アンジェラ 麻奈
ベルナルド 一樹
中田町3158-2 東熱社宅403
デンワ 803-4862

セシリア 井野 ゆり子
アグネス 里美

岡津町1500-2 ルネ戸塚613
デンワ (813) 6791

6月22、23、24、25日（金曜日～月曜日）
「日本鉄道カトリックの会」全国大会出席のため留守をします。
日曜日（24日）のミサはウルフ神父様をお願いしてあります。尚、土曜日（23日）の午後のミサはありません。

愛する日本への贈物 ③

アラドーから来たアンドレ・レノーレ神父は約10年間の労働で何をどのように見たか

山崎正俊

③ 残業をこんなにやれば、労働者の数はもっと少なくてすむので、ついには、失業者の数をふやすことになる。それで、他の同種の労働者が憎らしい敵にさえ見えはじめます。人は誰もが普通の場合には、他の人のために役立ち助け合いながら、それぞれの生活をいとなむ者ですから、その悪影響が国境を越えて伝わるということは、妨げられません。たとえば、残業をよくやるなら、資本を出している者たちと会社の経営者たちとは、ほめてくれるでしょうが、これはもっと弱い部分の人たちの苦悩と涙のうねに打ちたてられる成果というものでしょう。だから、これは公害の輸出とも云えるほどの残酷さにもつながります。――それは、その経済的利益を追求するのあまり、自分の人生の意味を変えるほどの（思いやりを反する）行為にかりたて、他の人たちの生活権を奪うほどの（奉仕を妨げる）行為をさせるから。

④ いつも残業をすることになると、先輩たちがその血で手に入れてくれた「人間らしい生活をするゆとり」を、ふたたび失うばかりでなく、賃金の引き下げを進めさせることになります。――賃金が安すぎる、残業収入で補う。それで生活費が足りることになり、労働者の権利・八時間労働のことを忘れ、正当な給料を受けなくなっていることにも気がつかない。（フランスでは、一日に八時間労働の要求は、1919年に出され、17年の後、1936年になって、「人民戦線」の力でやっと勝ちとられたものです。今日のヨーロッパでは、他の国からやって来た労働者の労働条件の事を、あまり考えようとしなかったことから、この労働時間を守り切れなくなり、せつかくこの権利の行使に乱れが生じて、経営者のしめつけが厳しくなり、前の時代のように、労働者の「人間としての生存権」が、狭められてきたことが、新しい問題になっています。すでに、労働者自身によって、この権利が棄てられているこの日本ではこれから、どうなるのですか。）

◎ しかし、このような残業に関する考えは、ヨーロッパ固有の考えではなく、人間の当然の考えであって、キリストの教えでもあります。――ぜひいたくは云いません。質素な生活で満足します。神様に従う者の喜びに生きたいだけです。

仕事を通して思うこと 4

上野 厚

前回は、放火犯罪の農村から都市型への変容ということについてお話ししましたが、今回は、人間関係の不調和が基盤となった動機都市型放火犯罪の特徴的な犯罪者像について述べてみたいとおもいます。

この時期に放火を犯した犯罪者の年齢をみてみますと、約6割が20歳から35歳の若い年齢層に集中しており、学歴では、6割以上の方が比較的低学歴の人であり、職業では、学校卒業時には人生を通じての定職ともできる職業に就いていても無職となったり2回以上の転職をしていた人が8割以上を占めており、8割以上の方が未婚又は離婚して単身生活をしていました。

また、これらの人達の義務教育終了時までの出身地では、6割以上が放火犯罪を犯した以外の県外出身者となっています。

さて、今回のお話は昭和50年前後の10年間放火を対象としたデータに基づいていますが、この10年間は昭和40年前後頃から始まった我が国の経済が高度成長の真っただなにあった時期です。昭和30年代の半ば前後から、地方から集団就職で都市に出て来る人達は「金の卵」と呼ばれ日本の高度成長を支えた人達でした。敢えて誤解を恐れずに言うならば、この人達と、今、お話ししている犯罪者像が、オーバーラップする部分が多いことにきずかれます。紙数の関係から紹介することは出来ませんが、これは個々のケースをみると一層鮮明になってきます。

この人達のケースをみていて感じますことは、職場や私生活の身近なところでも気軽に相談出来る人がいたなら、この人達は恐らく放火を犯さずに済んだであらうということです。この意味で、人を労働力としかみなさない企業の無責任さと我々の生活する都市地域社会の冷たさ、未成熟さを感じずにはいられません。

近年、外国人労働者や難民の人々が問題となっていますが、犯罪という側面からみても、私には「新」金の卵のように思えてなりません。今回、横浜教区宣教師協議会「新しい共同体をめざして」の具体的実行テーマの一つとして「アジアとの関わり」に優先的に取り組むことを決定されましたが、以前は、信者がこうした社会問題に直接参加できる機会が少なかつただけに、私自身、積極的に加わって行きたいものと思っております。

7月の行事

1日 委員会 ミサ後
6日 初金 10:00
15日 壮年会 ミサ後
婦人会 //

レジオ 13、20、



第150回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年7月1日

日本布教再建とジラル師・ ピウス9世に関する覚書き

宮崎 晋

横浜教区は、昭和37年(1962)、日本布教再建100年祭を盛大に挙行政した。それは、文久2年(1862)1月12日、横浜の外人居留地80番地(今の山下町80番地)に、鎖国後最初の天主堂、聖心聖堂が日本教区長(代牧)ジラル師によって祝別されてから100年を迎えたので、そのことを記念するための祝典であった。

ジラル師は、1821年叙品、香港に渡り、フォルカード師の指導と感化を受けて、日本布教に志し、琉球に渡来したが、厳重な宮憲の監視下に置かれて、布教は全く許されなかった。安政5年9月3日(1858年10月9日)日仏条約の締結を見て日本入国も可能になり、ジラル師は日本代牧に任ぜられた。依って香港に赴いたが、たまたま江戸駐在仏国総領事ベルクール氏より、通訳兼司祭を求めてきたので、ジラル師はこれに応じ、安政6年6月(1859年9月)通訳兼領事館付司祭として、江戸に入ったのであった。

天主堂建設のあと、ジラル師は一旦フランスに帰り、政府当局社をはじめ各方面に、幕府がキリシタン禁制を撤廃するよう努力されたき旨を要望した。ジラル師はまたローマに赴き、時の教皇ピウス9世に、日本の保護者に聖母の汚れなき聖心をいただくことの公式決定を願い出たようである。文久3年ジラル師は日本に帰り、幾多の功績を残されたあと、慶応元年(1865)12月9日逝去された。享年46才。

ピウス9世は、1792年、シリガリアに生れ、1819年叙品、1846年教皇に選ばれ、1878年までの32年間ご在位、御年86才で逝去された。

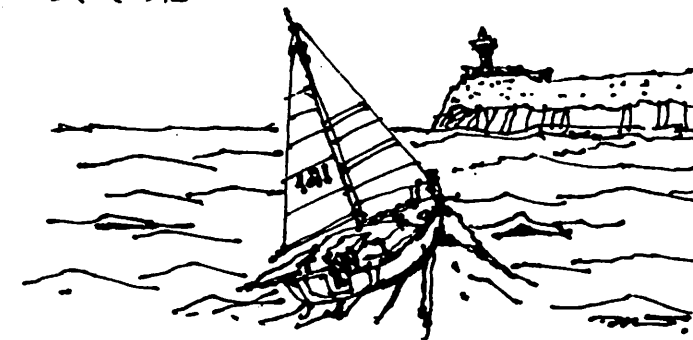
1848年ローマに革命が起り、教皇はゲータに逃れる数々の事件があったが、1869年から70年にかけておこなわれたヴァチカン公会議において教皇不可譲権の教義を決定したことは教皇のご事績中特筆に値するものとされている。しかしその前1854年12月8日の大勅書により、聖母無原罪の御孕りの教を教理とされたことはそれに劣らぬ大きな功績である。1858年にはルルドにおける聖母のご出現があり、ピウス9世と聖母との間には何か微妙に深いものがあると思われてならない。

その教皇によって聖母の聖心が日本の保護者に定められたのであり、また文久2年6月8日聖霊降臨の大祝日に長崎の26殉教者が列聖されたのも同じ教皇によるものである。それ等のことを考え併せると、ピウス9世のお人柄と日本に対するご関心の程が偲ばれて、深い感動を覚え、感謝を献げずにはおられない。(平成二、六、八)

委員会だより

6月3日 集会室に於いて壮年会1名婦人会2名出席のもと開催。

- 葬儀ミサのしおり(小冊子)について
現行の“しおり”を再度検討してまとめる。
- 山崎神父様ご霊名祝日のお祝いの件
・7月1日(日)お祝い
・霊的花束については6月10日より受付
- 山崎神父様JRカトリック会ご出席の件
・6月22日より6月25日まで
・同期間中の留守当番を婦人会壮年会で協力をお願い。
- 教会内の諸設備調整について計画と実施状況報告。(小谷委員長より)
- 中和田教会信徒ビンボン大会(案)について
信徒の親睦を目的に井上委員を中心に準備委員会を設け検討することになった。
日時 8月26日(日)ミサ後～を予定
- カトリック中和田教会バザー企画について
今年の11月初旬とするが婦人会の意向により最終的に決定する。
- 横浜教第5地区宣教会議報告
詳細については別途小谷委員長より“中和田会報”で報告の予定。
- 5月度会計報告(橋委員)
- その他



壮年会だより

(6月24日開催 出席者13名)

- 状況報告(清水会長)
- 委員会報告(小野寺副会長)
・今回の交流レクリエーションは、ソフトボールよりも卓球の方が現実的ではないか。
・その他
- 交流レクリエーション
委員会で検討されたように、卓球大会に賛成する。卓球台1台の寄付があったが、3台位は必要ではないか。場所や練習計画も検討する。
- 壮年会の講演会
9月16日(日)のミサ後。昨年のように講師を呼ぶか、会員の中から選ぶか話し合われましたが、後者にすることになりました。トッパッパッターとして、外務省にお勤めの鈴木さんに「カナダの最新情報」について話してもらうことになりました。
- 庭の整備
・車のフロントに名札をつけるように。
・駐車場と樹木や花との調和を考えなが整備していく。
・第二駐車場は、次回の委員会で具体的に話し合われる。

婦人会だより

6月24日出席者27名で例会が開かれました。
◎婦人会役員各地区委員によるバザー準備の話し合いが6月10日行われその結果

- ①大筋でバザーは例年の形式に沿った形で行いたい。
 - ②神父様、教会委員のご意向は親睦を目的とするバザーということなのでそれを念頭において進めたい
 - ③7月3日より毎週火曜日10:00～14:00バザーのための作品作りをします。ご都合のつく方はご参加ください。(計10回を予定しています。)
- ◎バザーのための家庭新品不用品を9月より集めさせていただきます。今から少しずつご用意ください。
- ◎新入会員セシリア山口理恵様
電話 803-4862 どうぞよろしく願いいたします。
- ◎阿部(寿)様お世話のお茶の申し込みが掲示番にはってあります。お申込み下さい。
- ◎次回例会は7月15日お当番は、いちょう団地上飯田、瀬谷です。

お知らせ

◎ご結婚 おめでとうございます
6月17日(中和田教会)
佐藤 淳
カタリナ 花坂 敦子
住所 港南区日野9-46-25
電話 846-0422

◎ご転出
ヨゼフ 宮川 登
ベルナデッタ みよ子
住所 東京都大田区西糺谷 3-12-3
電話 (03) 741-6088

編集後記

早いものでもう7月に入りました。皆さんの夏休みの計画はいかがですか。今年はどうやら雨の少ない空梅雨の予想が出ています。ジメジメしないほうが気分的にも健康的にも良いと思うのですが、降る時には降らないと自然のサイクルが狂ってしまい、稲の生育、夏場の枯水、等、後で我々の生活に支障が出てきます。やはり、いやな梅雨でもこの時期ジッと我慢して、夏を迎える事が日本の風土に合っていて、自然なのでしょう。

皆さん、この時期、健康に留意して、夏を迎えましょう。
尚、恒例によりこの会報は8月、お休みとなります。では、また9月にお目に掛かりましょう。
M・I

9月の行事

7日 初金ミサ10:00
9日 委員会 ミサ後
16日 壮年会 " "
婦人会 " "
レジオ 14、21、28



第151回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年9月2日



アンドレ神父の御意見を聞いて

同志イナダ

◎ 日本国内での残業や休日労働による長時間労働は、中小企業だけでなく、大企業の労働者の間でも、非常に多くて、一般的になっています。それは運命共同体と考えるような、企業への強い帰属意識や、物質優先の価値観や、現実の低賃金などに支えられて、すぐには解決できない問題ではあります。しかし、その長時間労働は、人としての生活を破壊し続けていることが確かなのですから、多くの人たちは頭の中では、不幸なこと、なくしたいことだと思っているはずですが、

◎ 問題とすべきは、余りにもあたりまえのように行われる長時間労働のなかで、労働者自身がその矛盾を忘れ、あるいは気付かずに生活している場合が、ほとんどであることです。そういう意味で、アンドレ神父の指摘は貴重で、労働者にとっては、繰返し、思い起こさせられなければならない点が多いと思います。これは、無自覚に生きている日本人への告発を、含んでいるからです。

◎ 残業を断りつづける。これは、あまりにも重い「たたかい」です。このような「たたかい」を通してしか、本当の生き方を貫くことができない社会の現実があり、権利を自覚した労働者の「たたかい」は、同じ基盤の上に生きる労働者の共感を生じさせるものです。そこが、労働者の運動主体であるはずの労働組合の出発点であると思えます。けれども、現在の大きな既成の労働組合の多くは、その組織に安住して、そうした下からの原点的とも言える「たたかい」とは、無縁のもようです。(中略)――後述。

◎ このことでは、未組織労働者も組織労働者も余り変わらないと思います。それは、多くの組合が労働者管理の性格を強め、経営側との馴れ合いの関係を保つように心掛けているせいで、個々の労働者にはその団結の意味がうすれ、組合からの統制処分の覚悟がなければ、「不当性」を排除するための「たたかい」を、自らの意志では始められなくなったからです。つまり、組織労働者も、それぞれの職場単位での、隣り同士の団結を生み出せる状況などありようがないのです。今日の組合運動には、この「下からの小さな単位での団結」を生み出す「日常的なたたかい」という、最も大切で必要な決意の根が欠けていると言えます。

南米への道すがら

宮崎 佐喜男

約2ヶ月前社用で南米アルゼンチンを訪れる事になった。離陸後のあわただしいセレモニーが一段落し、仕事に対する一抹の不安や見知らぬ人々との出会いへの期待とが錯綜する中、機内の暗さにつられて目を閉じると3年前同国を訪れた時の出来事が脳裏をよぎった。

それは仕事を終え、日本への帰路につく日であった。出発迄時間に余裕があったのでホテルからそれ程離れていない教会を訪れた。日曜日ではあったが早朝であったこともあってまだ訪れる人は無かったが杖をつきながら教会を訪れた一人の老人に出会った。

どこの国から来たのか云々の紋切り型の問から始まり減多に会うことの無から東洋人にいろいろと話しかけてきた。何せ日本とは地球の裏側に位置する国であるから日本に関する情報はほとんど知られておらず経済大国でテクノロジーに優れた国である事位しか一般的には知られていない。そんな具合だから宗教的に見ても国民全体が仏教徒と思われており、私がカトリック信者である事を知ると目を丸くするケースがほとんどである。逆に日本人であるという事から一線を画していた人達でも私がカトリック信者である事を知ると急に心の底から親しみを持って接する様になる事もある。こういった時カトリック信仰に国境は無いと改めて思う。この老人も信者である事を知るとボツリボツリと自分の事について話し始めた。自分には子供があり子供と一緒に同居したいが生活が貧しく思いのままにならない事等淡々と話していたのを思出す。そんなせつない気持ちも早朝から教会に来ることで忘れる事が出来安らかな気持ちになれるという。

先日ふとした機会に拝聴したサレジオ会倉橋神父様の講話の内容とが頭の中でダブッて思い出された。神父様は現在南米ボリビアを中心に福祉活動の面で活躍されており、度々その国の代表と一緒に日本を訪れ関係機関に経済的援助を願う為走り回っていると話しておられた。先立つ物は……という事であろうが日本国民から真に欲しい物は「現状認識と理解」であり決して「同情」ではない事、単なる同情はかえってその民族を侮辱する事になる事等切々と訴えておられた。

国内のカトリック信者同志の結付きは無論だがせつなく全世界に出来た「輪」である。現在進行形で人生の今を生きる旅人として自分自身を磨く意味でもこの「輪」を大事にしたいものだ。

そんなとりとめもない事を考えているうち、いつしかまどろみの中に吸込まれていった。

壮年会だより

〔懇親会〕 8月19日開催 16名参加

〈庭の手入れ〉

ミサ後すぐに、お御堂裏の庭の手入れをしました。みんなノコギリ、カマ、ハサミなどを持ち寄り、今まであまり手の届かなかったコーナーの大きな枯れた檜の木を切り倒したり、覆いかぶさってきた青垣きを刈り込んだり、焼却炉で燃やしたりしました。

みんな一丸となり、汗を滝のように流してがんばった1時間。お御堂裏がすっかりきれいになりました。

〈懇親〉

その直後にいただいた飲みものや食べものの美味しかったこと。会が盛り上がったことは言うまでもありません。今回も婦人会の方々の接待がとてもやさしく感じられました。

会費2000円。残金4479円は壮年会会計に繰り入れました。

〔卓球大会〕 8月26日開催 約40名参加

中和田教会の初の試みとして、壮年会が主催した卓球大会。青年会、婦人会との親睦を目的として計画しました。

選手32名、参観協力者約10名という意外に大勢の信者さんが集まりました。お御堂を使わしていただき、神父様の始球式で試合開始!

4チームを組み、ダブルスとシングルのリーグ戦、文字通りの熱戦が繰り広げられました。10名の青年を含め、婦人、壮年もすっかり子どもにかえっておおはしゃぎ。全身汗まみれになっての3時間あまりの楽しいレクリエーションとなりました。すばらしい賞品、参加賞もあり満足でした。

「楽しかった!」「来年もやろう!」「名前をたくさん覚えた!」などの感想があちこちから聞かれました。

企画運営の中心になって動かされた宮崎さんをはじめ、御協力くださった多くの方々に感謝いたします。

婦人会だより

7月15日 27名の出席で例会が開かれました。
1、藤沢精神薄弱者(児)育成会で製作した版画の絵ハガキを、協力販売致しました。多数の方々ご協力、ありがとうございました。
2、8月26日 壮年会主催のピンポン大会に数名参加を予定。
3、9月11日(火)横浜女性フォーラムで「クラシックギターの午後」のチャリティ演奏会があります。お話は浜尾司教様がされます。会費は1人 2000円です。
4、島田裕子 いのちの電話、チャリティーコンサートのチケット販売の依頼があり、10名の方がご協力して下さいました。

次回、当番は 9月16日、和泉、ドリーム、深谷、汲沢、地区です。

委員会だより

7月1日 集会室に於いて壮年会1名、婦人会2名出席のもと開催。

- 1、夏期要理学校の件
8月9日～11日、桑野市滝沢キャンプ場において、バンガロー3棟借りて行う予定。
- 2、信徒の慶弔情報の徹底
委員会はじめ壮、婦、青、中高生会等、各信徒間のコミュニケーションを密にして、もれが生じないように各自注意して戴きたい。
- 3、教会設備等の整備補修の現況報告
整備したもの
・ガス湯沸し器
・下駄箱
・会議室の引き違い戸をガラス枠戸に改修
・掃除用具収納室に電灯設置
・台所横の和室のタタミ表替え
・朗読台新設
・事務室拡張による壁撤去、補修工事
・間仕切り兼用本棚(キャスター付)新設、等
- 4、告別式葬儀ミサ、式次第の掲示板新設
・保管場所は香部屋
- 5、その他
・ピンポン大会の件
・「中和田教会のあゆみ」販売について
聖堂入口の台の上に各自、自由に求められるように常設していく。
・駐車場利用の件
利用者の現状の調査と自動車登録表の作成を行う。
- 6、6月度 会計報告
詳細は会計又は広報委員の所にあります。
- 7、懸案事項
・集会室の冷暖房設備の検討
・香部屋の整理について。
- 8、山崎神父様、司祭大会出席の為の留守当番の調整 (壮年会、婦人会)
日時 8月27日～29日

お知らせ

ルカ 荒井 勝三郎司教様 7月25日逝去
山手カトリック教会葬儀 7月28日

ヨハネ 竹田 田作氏 7月27日逝去
マリア 青柳 ヨネ様 7月20日洗礼
7月24日逝去

受洗

7月29日

マリア、ゴレッティ 武田 真理子
マキシミリアのCOLBE 武田 洋一

初聖体

8月12日

フランススコアシジ 滝川 至
マリア、インマクラータ 武石 奈美子

転出

マリア 館野 厚子
ヨハネ 館野 邦彦
住所 東京都 清瀬市 中瀬戸2-750-7

10月の行事（ロザリオの月）

5日 初金ミサ10:00
7日 委員会 ミサ後
21日 壮年会 "
婦人会 "
レジオ 19、26 10:00



なかわだ
会報

第152回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年10月7日



同志イナダの発言に続けて

山崎正俊

◎ 私は、わざと、次の部分を抜かしました。それは、ちょっとした引っかけがあったからではあるのですが、アンドレ神父様の動きは、カトリック教会の中で認められていることではあるわけでも、ごく一部の賛同を、やっと受けているだけです。いまのところ、過大評価による「買いかぶり」になりそうなことを恐れてのことです。それでも、ここに補うのは、アンドレ神父が遺言のような、涙ぐましい決意のもとに話していることを、この人がまともに受け留めてくれておるということ、カトリック信徒たち（神父たちも含めて）の多くが、拒否反応を抱くか、すぐに忘れ去ってしまうだろうことを考え合わせたうえのことです。――教会に、そうした労働者のかかえる矛盾を解決するために、抑圧している制度・社会の変革のための「たたかい」を進めている者に勇気を与えて、自由な人間として生きる方向を正しく示そうとする動きがあるなら、すばらしいと思います。これは或る人のことではなく、今日の都市に生きる全労働者が直面している共通の問題だからです。（はじめに、「教会についてはよく知りませんが、もし」と書いて、そのうえで、ブラドロー会の神父たちのことをいくらか知っているの、先入観を変えて、カトリック教会に好意的な気持ちになってくれているのだとおもう。）

◎ ローマで、カタコンベに入いったとき、そのときには、その初期の信者たちが、権力者の目を逃がれるための手段として選んだこの地下墓地の暗闇の深さを、私は忘れていた。現在の其の場所は、地上と殆んどちがわない明かさと、空気のさわやかさがあったからだ、似たようなことは、日常の体験の中にもある。――ブラドロー会の会士たちの当然のこととして自分に課して堪えている部分。下層の「3k」のなかに押し込まれている人たちの惨めさ。多くの身勝手な人たちの陰に差別されながら細々と息をしている人たちの悲しみ。いまタヤスク手にしているすべての物はみな、他の人たちのそのような動きの成果を受けているのに、そのような動き手の恩恵をまったく気付こうともしない私たちのオゾマシ生きざま。――生きていることが、罪悪を限りなく振りまくことになりかねないのは、このわけからです。



私の健康法



山田孝信

私は戸塚駅まで毎日歩いている。駅までは35km約40分かかる。「よく40分も歩きますね」と人に言われるが、毎日歩いているので全然苦にならない。逆に楽しみにしている。

春は、道のほとりに咲く梅、桜、ちんちようげツツジ等を見るのも楽しみの一つだ。夏は暑くて歩くのは大変だが、逆にスッパリする。駅までの間で、富士山が見えるところが3カ所ある。秋から冬にかけては、毎日3カ所まで振り返り富士山が見えるか確認している。富士山が見えた日は何となく気分が良い。

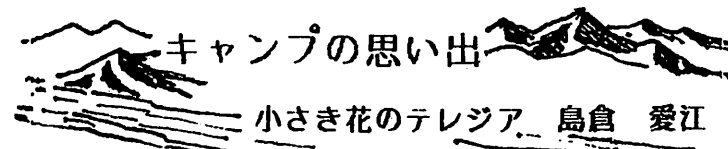
長後街道は毎日交通渋滞で車が連なっている。最初はバスに乗っていたが、順調にいても30分、渋滞にぶつかると1時間かかることもあるので、イライラすることも多かった。それで、健康の為にも良いので思いきって歩くことにした。歩いて40分、バスで30分その差は10分であるそのぶん早起きし、毎日歩いている。これでイライラせず精神上も非常に良い。

会社は東京の虎ノ門にあるので新橋まで電車に乗る（約40分）。ここから虎ノ門まで歩いて15分、会社の階段を四階まで歩く。これが私の1日のコースである。会社までの通勤時間は約1時間30分である。帰りはオール乗物を利用している。1日の歩数が約1万歩になる。私はこのお陰で腰痛も治り、糖尿病の心配もなくなった。歩くことの効果は絶大である。

普通健康のためには1万歩歩くと良いと言われているが、現代は車社会で歩くことが非常に少なくなっている。老化は足からとも言われている。是非歩くことをおすすめしたい。

このほか、（1）早寝、早起き（2）三食きちんと（3）規則正しい生活等を心がけている。

信者のかたは日頃信仰を通して精神上的の健康について心を配っていることと思いますが、体の健康についてはいかがですか。ここに私の拙い体験を披露しましたが、参考になれば幸いです。



キャンプの思い出

小さき花のテレジア 島倉愛江

8月9日（木）滝沢園へキャンプに行きました。去年、行ったときよりもっとも水が少なくてほとんどいってもいいくらいでした。お昼ご飯を食べて、水着に着替えて、川で遊びました。しばらくとなみちゃんと、川を石でせきとめてろてん風呂を作ろうと言ってどんどん深くして行きました。それから、男子と水をかけたりしました。

それまでは、腰ぐらいいでしか水につかっていなかったもので、かたのあたりにかけられると、とっても冷たかったです。途中で時々雨が降ったけれど、それほど強くないときはかまわず遊んでいました。川原にテントをはって、そこでバーベキューをしました。その後、花火をしました。わたしたちのやっている花火と、隣りの人の花火を見ました。両方とも、とってもきれいでした。女の人達といっしょにバンガローでねました。次の日雨で川が増水して、前の日とはくらべものにならないほど、ふえていました。台風11号が上陸して、大雨でした。本当は上流の方に行く予定だったのに行けなくて残念でした。雨が降って、川であまり遊べなかったけれど、雨は、雨なりに、少し楽しかったです。 おわり

壮年会だより

（9月16日開催 出席者12名）

講演

講演会を開催しました。講師はカナダ大使館に勤務されている壮年会メンバーの鈴木さんをお願いしました。演題は「カナダの最新情報」で、カナダとの30年の付き合いを元に、非常に雄弁に話され、聴衆を魅了してくださいました。

【モザイク国家、連邦国家】

フランス、イギリス、ドイツ、ウクライナ、インディアン、その他（日本人など）の民族が文化伝統を守っているが、良い面と悪い面がある。インディアンとは現在対立している。

10州と2準州があり、州にも内閣があり、州の首相がいる。軍隊は連邦で統一されているが、税制は、州と連邦にそれぞれあり、複雑。輸出入の交渉など難しく、時間がかかる。教育は州に権限。したがって、大学は州立と私立。

【カナダの地理と経済】

広大な国土と大自然に恵まれ、木材、石油、石炭、天然ガス、ウランウムが豊かにある。水も多く、真水で飲める湖がたくさんある。電力もひじょうに豊富である。食品は多く安い。庭付きの家が一軒1500万円で購入。日本との貿易均衡はとれている。日本人観光客は年間約50万人で、世界第3位。金持ちで金上客である。

中産階級が多く、都市にスラム街がない。

冬の寒さが非常に厳しく、産業があまり発展しない。

大陸横断鉄道のカナディアンパシフィックがひどい赤字でつぶれた。その代わり、1991年に超豪華大陸横断列車が完成する。（これに一度乗ってから死にたいとの声多数）

【国民性】

資源は使えば必ず無くなるという考えを持ち、大切にしている。

犯罪が少なく、警察があまりいらない。これは隣国のアメリカと対比的である。

規則には厳格であるが、人情が厚い。引っ越しのときには、近所の人が出で手伝う。車が故障すると動くまで面倒をみる。政治的避難民を日本などと比べものにならないほど多く受け入れている。

この人情の厚さは、おそらく冬の厳しい寒さの中で生活していくうちに培われたのだろう。

真面目で商売べたである。

*このような講演が終わった後、興味の尽きない質疑が続きました。講師の鈴木さん本当にありがとうございました。これからいろいろと教えてください。

委員会だより

9月2日会議室に於いて、壮年会1名、婦人会2名、出席のもとに開催。

- 1、会計報告（橋委員）
7月度、8月度の詳細は会計又は広報委員の所にあります。
- 2、自動車登録表 状況報告
・申込者数 48台
尚、参考意見として
：車のフロントに名前札をおく。
：早く帰る車と、遅く帰る車の置場所を分ける
：一覧表にナンバーの若い順に並べ必要な時に分り易いようにしておく。
又、駐車位置を設置する件は検討中。
- 3、敬老の日のお祝いについて
・9月15日（土）
・敬老者の名簿準備 9月9日迄
・お祝いの内容は従来通り。予算70000円
- 4、バザーの件
・開催日 11月11日（日）
・総括担当委員として花坂副委員長
・壮年会、婦人会、青年会、中高生会共、従来通りの内容で協力をお願い。
・ポスターの準備、要理学校井上委員担当
- 5、10月ロザリオの月
・10月7日より10月28日まで（毎日曜日）
・9時 ミサ前 8時45分よりロザリオの祈り
- 6、教会改修工事業者（ミツマ店装）に感謝状贈呈の件
- 7、神父様黙想会出席のため留守当番のお願い。
・9月17日より 9月22日まで
・壮年会、婦人会に留守番の協力お願い。
- 8、その他の事項
・清水壮年会長 病氣加療の為入院
・“中和田教会のあゆみ”の販売状況（次回）
・11月 死者の月

婦人会だより

9月16日 19名の出席で例会が開かれました

- ・バザー 新品の不用品、中古衣料の箱への締切りは、10月14日です。より一層のご協力をお願い致します。
- ・婦人会の連絡の件 緊急以外の連絡は婦人会用（当番表の下に貼ってあります。）の掲示板で致します。
- ・いのちの電話へ婦人会より一万円献金致しました。（基金増額のための寄附依頼があり、相談の上協力することになりました。）
- ・次回の当番は10月21日 踊場地区です。

お知らせ

転入

エリザベト 山本 綾子（りょうこ）
フランシスコ、アジジ 舟（しゅう）
中田町1675-4 白百合母子寮

モニカ

佐々木 邦子
白百合2-15-2 小沢様方
（813）6401

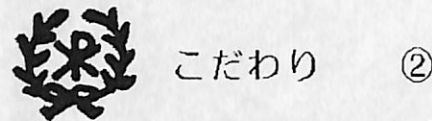
11月の行事

- 4 日 委員会 ミサ後
- 11 日 バザー
- 18 日 壮年会 ミサ後
- 婦人会 "
- レジオ 9、16、30



第153回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年11月4日



こだわり ②

山崎正俊

◎ そのうちに、いろいろと大事件に関わり、ことは志と相違いということになりゆき、そのまま裁判官。つぎつぎと後輩が入って来て、いつの間にか押しあげられて昇りつめ、たいへんな責任を引き受けさせられることになったのだ。

◎ 法律家として、宗教とかかわるときには、信教と思想の自由・宗教結社の自由のことを考えたが、長官就任の挨拶のなかでは、アガペーの精神に徹する所信を述べた。それは一般にはなじみのない言葉であり考え方であったせいか、あまり理解してはいただけなかったようだ。アカンペーの精神と思われてしまったのだから、笑うに笑えない、あきれた話だ。それはむくいを期待しない無償の愛のことで、母のその子に対する無私の愛などが、それに近いものと言えるかもしれない。

◎ 母は、私がキリスト教に入ったことに就いては、おもてだって強いことは何もいわなかったのだが、父の写真などはすべて焼き捨て、思い出になるものは、私のためには何ひとつ残して欲しかった。仏教徒としてこの世を去った父とは無縁の者になったのだから、その墓を守らせることなどはさせられない、とでも思い込んだのかもしれない。なぜ、そのようなことをしたのか。たいへん残念なことだ。――この母の心の狭さを非難することなど、あまりしたいことではない。それでも、御自分の理解を越えた、そのしきたりに反する者への、これほどの憎しみの情の根深さを感じると、その恐ろしさに身もすくむ。その子の知らない、伝統を守り伝えるという重大な役割りを負わされている者・母たちの、自覚されないままに実行される呪縛の、冷酷無惨さ。

◎ 朝食は、一人で静かにすますことにしているのだが、夕食はたいいてい、長男夫婦や孫たちと、ニギヤカにいただくことにしている。――毎日の日記を書くということは、ときに負担に感じられるが、いま、67冊目になっている。これほどにも続いているわけは、嘘を書けなかったからだろう。(妻をごまかすための作り事を記そうとすると、きまって、筆が動かなくなる)。正直であることにまざるものはない。それでも、その晩年に、あの正直一途の妻が、あれほどの痛みにさいなまれねばならなかったのは、何故ですか。

横浜教区一粒会大会に出席して

岩崎好愛

9月24日、横浜教区の第23回一粒会大会が藤沢教会に於て開催され、会場が近いということで、今回初めて出席してみました。

午前11時からのミサに始まり、昼食を経て、午後からは林健久師及び野村昌樹師の講話があり、みことばの祭儀、一粒会総指導司祭の森田満義師のお話と続き、藤沢教会の堀部氏の「アベマリ」の独唱を以て午後3時終了しました。

ミサ中の共同祈願では、当教会委員の富田氏が司祭の召命を願って心をこめて祈られました。

又ミサ終了時、金祝、銀祝を迎えられる神父様方の紹介と、70歳以上の神父様方へのカードの贈呈があり、私たちの山崎神父様が、70歳以上の該当神父様方の中、唯一一人のご出席者ということでカードの贈呈をお受けになり、益々のご健康を希って一同拍手を以ておよろこび致しましたところで、この大会の中で、私にとって最も印象深く心に残ったのは、野村師のお話でした。

師は、今の教会の中、特に青少年信徒の間に信仰のダイナミックなエネルギーが欠如していること、豊かさの中で信徒すら大切なものを見失っていることを、非常な危機感をもって述べておられました。教会の現状の問題点として、教会が小さくなってきていること、青少年が教会に来なくなってきたこと、同時に教会自体が青年から離れていることを指摘され、それを立て直すのは青年自身のパワーであり、そのキーワードは青年自身が必ず持っている筈だと、出席者の中にほとんど姿の見えない青年達に向かって必死に語りかけておられるのが、痛い位心にひびきました。

日焼けした青年らしい清々しさを湛えた野村師や、司祭職には限界がないが、よろこびはあると淡々と語る若き林師らに続く司祭、修道者志願の多くの若者が、主の呼かけに敏感に応えて輩出することを祈りつつ会場を後にしました。

キャンプに行くまで

6年 ペトロ 松下 和博

8月9日、7時からミサがあり、7時30分にミサが終わりました。

そして、出発しようとしたら、車が一台、動かなくなり出発が8時20分におくれてしまいました。それから一時間ぐらひは、どんどんすすんでいったんだけど、4台ならんでいったので、途

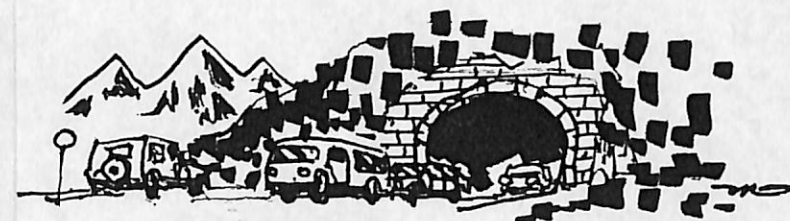
中で、間に入られて、皆との車が二台、二台に別れてしまい、道に迷ってしまいました。

そして板金屋さんに道をたずねたところ、もう少しさきと言われて、さきに行ってみて、ガソリンスタンドの人に聞いて見たら、その人は、おばあちゃんに聞いて見るよと言って、電話をかけたから電話に出ない見たいなのでガソリンスタンドのおじさんがちょくせつおしえてくれた答えは、もう少し前だといいました。

板金屋さんとガソリンスタンドとどちらがっているのかわからないので、もどって交番の人に聞いて見ると、「もっと、山をこさなきゃだめだよ」といいました。

そして、トンネルをこすと車が二台止まっていました。よく見ると、友だちの車でした。そして友だちに、何分ぐらひまった?と聞くと、「1時間ぐらひまった。」といいました。「昼ごはんもたべちゃったよ」といって、車にのって、はしりだし、やっとのことをついたと思って、時計を見たら、4時間車にのったということがわかりました。

完



委員会だより

10月7日会議室に於いて壮年会1名、婦人会2名、出席のもとに開催。

- 1、会計報告 (橋委員)
9月度、の詳細は会計又は広報委員のところにあります。
- 2、親睦バザーについて
・グルメ準備については支障なく進行中
・婦人会担当の作品等創作状況の報告
・食堂のメニュー準備
カレー 300円 おでん 250円
ライス 50円 ケーキと紅茶 150円
・中高生会の準備
タコ焼きコーナー、ビンゴあそびコーナー
・ポスター準備の件
・バザーに関する窓口
花坂副委員長、橋財務委員、七浦委員
- 3、未簡書類、並びにパンフレット類の掲示及び整理方法について、
- 4、暖房器具新規購入予算
100万円計上で検討中
- 5、山崎神父様ご慶祝について
霊名の祝日(12月11日)叙階記念日(12月21日)を含めてクリスマスを目処にお祝いを、準備する。
- 6、先唱の件について
・先唱担当者を第二朗読と定め当番担当表を作成する。
・朗読台を祭壇の場所に移す方向で準備を進める。
- 7、その他
・侍者をつとめる子供は遅くとも、ミサの5分前に来てほしい。(父母のご協力をお願い)
・七五三お祝いの準備 (井上委員)

壮年会だより

(10月21日開催 出席者15名)

- 1、委員会報告 小野寺副会長より
- 2、一粒会大会参加報告 富田さんより
若い人の教会離れが進んでいる中で、いかにして信仰に興味を持つようには行くかと言う若い神父様のお話があった。
各教会で、共同祈願に聖職者のための祈りを入れるとよい。若い人が教会の行事や先唱などに多く参加できるようにする。
- 3、卓球大会(8/19)の反省
・ひじょうに盛り上がり、暑さを忘れてみんなが楽しめた。
・今まであまり知らなかった青年部や婦人部の人の名前や顔を覚えることができた。
・卓球は、比較的狭い場所で大勢の人が楽しめる金のかからないスポーツだ。
・時間が少し長引いてしまった。
・今後他の教会との交流もしていくとよい。
- 4、講演会(9/16)の反省
・講師の鈴木さんがその筋の専門家であり、カナダについてよく分かり、興味深いお話であった。
・教会にはいろいろな専門家が沢山いるので、今後講師として大いに期待できる。
・壮年会内部の講師にも謝礼をする方向で。
- 5、バザーへの協力の仕方
・花坂さんがリーダーとなって進める。小谷さんが渉外をしてくださる。他のメンバーは適材適所(見習い可)で働く。
・出品は焼き鳥、焼きそば、焼きいか、ビール
・武田さんが高座ブタ肉を出してください。
・前日(11/10)にテント張りシート敷きの協力をする。

婦人会だより

10月21日 32名出席で例会を開きました。

- 1、11月2日(金)死者の為のごミサを10時より行います。
- 2、11月18日(日)までに本年度役員、地区委員を選出して下さい。
- 3、バザーの時のお手伝い表を張出しました。
お手伝いができる所にお名前をお書き下さい。
- 4、個人的にお願いしていたケーキ作りは11月6日(火)1時より立場地区センターで皆さんで作る事になりました。時間のある方は、参加して下さい。
- 5、バザーの経過報告をしました。

次回当番は、岡津、白百合地区、11月18日です

お知らせ

洗礼 10月20日
フランシスコ・アシジ 浜本 貴史(タカフミ)
中田町1686

転出
内田 富士子 TEL 831-6595
港南区日野南1-23-16(内田行重方)

転居
ジャン・マリ高木 潤(旧姓 石崎)
藤沢市湘南台1-30-29 フォーバル 201

待降節の黙想会
12月9日(日曜日)
指導 : ウルフ神父様(イエズス会)

12月の行事		
2日	委員会	ミサ後
7日	初金	10:00
9日	待降節の黙想会	
16日	壮年会	ミサ後
	婦人会	"



第154回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
TEL 045-803-6141
1990年12月2日



近況 ① 1990.11.17

山崎正俊

◎ ある大徳の逸話によると、その死期の近いことを感じられたのか、親しいひとに、「死にとうない」ともらされたとか。(弟子たちには承服し難く思われたので)その真偽は明らかでないなどと言われているが、それが、その晩年に身近かにいてお世話していたひとの言葉であれば、したり顔して、そうでもあろうか、「あの生臭が」と言う人もあったりして、勝手なうわさが、いまに伝えられている。尊敬されている開祖でもあってみれば、不名誉なことでもあるのであろうか。

◎ 泉大作家は、キリストが十字架のうえで、神に裏切られたとお考えになったかのようにさえ感じられるような言葉を、その弟子たちの記録のうちに、はっきりとした形で読まされて、複雑な思いにとらわれている様を、その「西方の人」の内に項目を改めて記している。真意は何処にあるのか、その死を間近に予定しながら、あれこれと記している。しかも、二十年近くも前のこと、明治天皇の御遺体が宮城を出られる合図の号砲を聞くと、その生命をお返しするつもりで、その妻と共に殉死した将軍が、御自分の地位を表す礼装を着け、それらしい装束をした妻もいる最後の姿を写したのは、誰のためにしたことかと言う。

◎ その自分の死を、何んとか飾っているようなもの、いじらしく可愛しい。自裁の本当の理由はもっと他にあってなどと言われているのは、どうであろうか。それはそれとして、名ある禅僧にも、キリストのあの言葉を聞くと、これも普通の人間と違いがないなど見て、自分が、いまも死を恐れている気恥かしさをなっとくし、安心されたという話がある。使徒たちは、救い主の死の場面を予言した詩編の最初の一行だと理解していると伝えられ、私は何んのためらいもなしに、それをそのまま信じており、無理しているのでもなく別の解釈に、とやかく言うつもりもない。

◎ この世に生まれ出た者は、必ずこの世から消え去っている。この私にも、その時は必ず来るだろう。これまでもなく、その時が近付いている印は、この老いぼれ振りにも、はっきりと現れているようだ。「その日」までは、せめて、粗大ゴミなどになりたくない。死の時を思うと、死刑判決とはちがうが、淋みしくて切ない。

高齢者介護教室に参加して

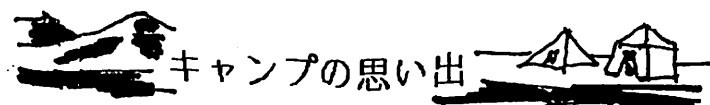
石崎継男

高齢者社会を迎え「寝たきり」「虚弱」「ボケ」など多様な形態の高齢者が増加しています。寝たきり、ボケを防ぐにはどうしたらよいのか、正しい家庭介護の方法などでお悩みの方は是非参加しましょう。受講資格は①家庭において寝たきり・ボケ・脳血管疾患による障害者を介護している方、将来介護にあたることを想定される方。②地域においてボランティア活動を行っている方、将来ボランティア活動を希望される方。

上記の案内を見て、私は2週間の講習会に出席しました。定員が30名で5人一組の6クラスに分かれて学習することになりました。その内容は(1)地域福祉と福祉政策・老人福祉政策・保険制度。(2)老人病・老人の食生活・歯と食生活。(3)施設でのリハビリテーション・介護実習等でした。

人生80年時代の到来と共に、老人をとりまく諸問題は深刻化し、複雑さがまっています。在宅介護が叫ばれる中でも高齢化が進むにつれて、核家族化や住宅状況から、在宅介護にも限度があり、施設入所の希望者の増大は各市町村の悩み大なるものです。施設入所の順番待ちはますます長くなりつつあります。現在65才以上の老人は全国で約10人に1人という割合で、来る2025年には約4人に1人という割合になります。また15才から64才の生産人口と65才以上の老人の割合は約6～7人に1人ですが、2025年には約2～4人の生産人口で1人の老人を支えることになります。一般には15才以上65才まで人すべてが働くわけではないので、実際には高齢者を支える負担はもっと大きくなるはずで、高齢者問題を考えると政治的、経済的課題を含有する社会構造の変化をあげられます。すなわち、心身の健康を損なうと経済的自立を失うばかりか、家庭や社会の役割やつながりを失い、しいては自我の確立である生きがいをも無くしてしまう結果となります。現在このように表面だけでは繕うことのできない解決を早急に迫られた社会的、個人的問題が山積みしています。しかも、これらの諸問題は現在の高齢者だけの問題ではなく、おそかれ早かれ、いづれ私達自身の、そして私達の子、孫達の問題となります。従って今、真剣にこれらの問題に取り組む必要性を痛感いたしました。

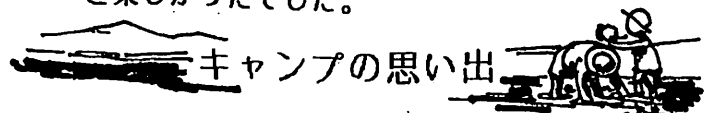
いろいろあるんだな、人間だもの いろいろあるんだよ、生きているんだもの
年は重ねただけで、人は老いない
理想を失ったときに、はじめて老いる
若さはうるわし、老いたるはなおうるわし



キャンプの思い出

6年 アシジのフランシスコ 武田 忍

キャンプ場に出発する時に、ワゴンに乗り、荷物はワゴンの荷台に乗せて、滝沢園へ出発しました。約、三時間ぐらいかかって、滝沢園に着き、荷物を置き、海水パンツに着替えて、川へ行き石を積み上げて少し水をさえ切って、遊んでいました。夕方ごろに川の片側が汚れていたので行ってみたら下水が流れていたの、石で下水をせき止めて少し流れるだけにしました。その後に川の水をさえぎっていた石をどかして、雨がふったら、立てたテントに入って雨が上がった、また石をどかしていました。そして、洋服に着替えた後、すぐにテントに行き、焼き肉パーティをした後に花火を始めました。終わった後に、バンガローにもどり、ねる準備をする前に遊びました。ふとんをしいた後にプロレスをやりました。電気を消してねようとした時に、山田君におちよくられたので、なぐったら、すぐぐんかになり、ぼくがすぐに泣いて、負けました。朝になって起きたら、川がすごい水で流れていました。少し遊んだら、川原の方へ行こうとしたら神父様に止められてしまいました。外は大雨で、台風11号が接近していて、大変でした。帰る途中に、木がたおれて、トラックの上に乗ったり、下水のみぞからふきでたりして、本当に大変でしたけど楽しかったでした。



キャンプの思い出

マリア・コレッティ 武田 真理子

おととい私は、ワゴンに乗って、滝沢キャンプ場に行きました。滝沢キャンプ場についてから川へ行って泳ぎました。マスのつかみどりをしました。初めてなので一匹も取れませんでした。テントを立ててやき肉パーティをしました。夜花火をしました。バンガローの中の人がいっぱいいたので、お母さんと、私の二人は車の中でねました。台風11号が近づいてきたので早く帰って来ました。ワゴン車の中でババぬきをおねえさんと、なみこちゃんと、しほちゃんと、私と、忍君と、至君の6人でトランプをしました。とても楽しかったです。また来年もみんなで行きたいおもいました。

委員会だより

- 11月4日、集会室に於いて壮年会1名、婦人会2名出席のもと、開催。
- 1、会計報告 (橋委員)
10月度の詳細は会計又は広報委員の所に有ります。
 - 2、親睦バザーについて
準備状況の確認
 - 3、ストーブ購入の件
・御聖堂用として5台、見積り検討中
・設置工事は教会で行う。

訂正の件 10月度議事録(なかわだ会報)の中で霊名の祝日は、誕生日のお祝い(12月11日)の誤りでした。

壮年会だより

(11月18日開催 出席者15名)

- 1、委員会報告 清水会長より
- 2、壮年会役員の改選
下記の方々を推薦し、満場一致で決定いたしました。
・会長.....位田さん
・副会長.....石崎さん
・書記.....岩渕さん
三人の方ともに承諾してくださいました。今後の2年間よろしく願い致します。
12月の例会で新旧の引き継ぎをします。
- 3、親睦バザーについて
・天候にも恵まれてよく売れ、壮年会部門でも本当の黒字になった。今年度は利幅を少し多めに取ったこと、御寄付があったことも良い結果につながった。
・今年は、青年会や中高生会から数名の協力が得られ、売り場がいっそう活気づき、ムードが盛り上がった。
- 4、卓球台の使用について
・子供や青年などがミサ後に使えるように、集会室を特に使うとき以外、常設して置いたらどうか。
・信者や未信者のコミュニケーションの場としても大切に行きたい。

★壮年会費未納の方は、年末になりましたのでよろしくお願い致します。

婦人会だより

11月18日、34名の出席で例会が開かれました。

バザーの反省会

- 一、各持場の方より一言つつ感想を話していただき、それにつき、とても活発で建設的な意見が多数出ました。
- 一、会計報告
純利益 228,108円でした。
(詳細は、掲示板に貼り出してあります。)
- 一、来年度役員が発表されました。
- 一、大掃除を12月22日(土)9時30分より行います。ご協力お願い致します。
次回当番は12月16日 中田地区です。



お知らせ

年末年始のミサ			
12月24日(日)	クリスマス	ミサ	20:00
25日(月)	"		10:00
29日(土)	ミサ		19:00
30日(日)	"		7:00 9:00
1月1日(火)	"		10:00
4日(金)	ミサ後、年賀祝杯があります。	初金ミサ	10:00